

富山の最新ニュース

webun

北日本新聞

とやまの橋

滑川市早月加積地区 2015年3月16日

早月橋（滑川市三ヶ～魚津市三ヶ） 2015年

3月16日掲載



■海・山望む憩い空間

早月川は劔岳から富山湾までを一気に下る国内屈指の急流河川で、周辺住民は昔から暴れ川の治水に苦勞すると同時に、農業や発電など利水による恩恵を受けてきた。河口近くに架かる県道富山魚津線の橋は、滑川、魚津の両市沿岸の市街地を結ぶ交通の動脈。2014年度には沿岸部を巡る「富山湾岸サイクリングコース」の一部として河口側の歩道に自転車誘導ラインが整備されるなど、親水の空間としても利用されている。

江戸時代、早月川に大きな橋は架けられなかった。明治になって川筋ごとに板を渡し、通る人々から料金を集めたという。現在の橋は「早月橋」としては四代目。初代は1889（明治22）年、二代目は1904（同37）年に架けられ、いずれも木製だった。39（昭和14）年建造の三代目は鉄筋コンクリート製で、64年間にわたって利用されたが、道幅の大半を車道が占め、路肩は1人歩くのがやっとだった。

四代目完成時に家族4世代8人で渡り初めした滑川市吉浦の細田麻理さん（45）は、対岸の魚津水族館やミラージュランドまで成長した子どもたちとウォーキングするのが習慣。「家族の思い出の節目に橋があった。海や山を見晴らせる景色にいつも癒やされる」と笑顔で話す。

滑川市三ヶで建設業を営む八倉巻仁志さん（55）は、昨年亡くなった父の與治さんが社長として3基の橋脚を建設し「住民が広い歩道を安全に

渡れるようになった」と喜んでいた姿を覚えている。「代々、橋に関わる仕事をしてきた。地元で貢献できてうれしかったのでしょ

う」と振り返る。仁志さんの叔父で県議会議長を務めた同所の八倉巻忠夫さん（79）は「明日の早月を考える会」を結成。「便利になって忘れがちだが、橋と共にあった暮らしを記録に残したい」と話し地域の歴史を冊子にまとめている。（写真部次長・野尻義明）

◆メモ◆

長さ328・5メートル、幅17・3メートル。2003年8月に、県道富山魚津線が早月川に架かる橋りょうとして建造された。魚津市街地から続く旧北陸街道は、滑川側の早月川左岸堤防を越えた地点で、南西方向に上市街道に分かれる。

